



アーティスト・ワークショップ

「秘伝☆木版画の摺りで空気を表現しよう」

展覧会:オーバリン大学 アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エイズワース浮世絵コレクション ー初期浮世絵から北斎・広重まで
木版画家、イラストレーターとして活動中の宇田川新聞氏を講師としてお迎えし、様々な摺りの技法を体験するワークショップを開催しました。平面の中に奥行きや空気感があらわれる奥深い摺りの体験を楽しんだ後は、宇田川さんがこの日のために彫ってくださった24種類の版木を使いポチ袋を制作しました。

概要 OUTLINE

日程 5月19日(日)

時間 14:00~16:00

会場 11階講堂

対象 小学校高学年以上

参加者数 23人

講師 宇田川新聞氏

スタッフ 美術館4人、ボランティア10人

参加費 500円

参加方法 事前申込制

ワークショップの流れ FLOW

- ① 木版画について、摺りの技法を中心にお話を伺う。
- ② 作家による摺のデモンストレーション。
- ③ 参加者による摺りの体験。
- ④ 作家の彫った版木で、体験した技法を使い自由制作（ポチ袋の制作）
- ⑤ 全員でお披露目会。講師からも感想。

材料と道具 MATERIAL & TOOL

水彩絵具、刷毛、バレン、絵皿、ポチ袋の型紙、はさみ、カッター
マット、カッター、定規、鉛筆、和紙、筆



宇田川さんの作品に触れながら、木版画についてのレクチャー。



宇田川さんによる「刷毛ぼかし」のデモンストレーション。



参加者による摺の体験。(左:刷毛ぼかし、右:作家が彫った版木を使い自由制作)



全員でお披露目会。

参加者の声 VOICES

- ・手法のちがいがなど初めて知ることができました。難しかったですがとても楽しかったです。
- ・単純な技法なのに、とても工夫の幅があって楽しかった。自分の予想外の良い作品になったりして、新選なおどろきも楽しかった。
- ・水分などで色の濃さなどが変わってとても面白かったです。またやってみたいと思いました。
- ・摺るだけではなく、版木をほったりもしてみたいです。
- ・摺り方に色々バリエーションがあるとは知らなかったのが驚きです。ボランティアさんにお世話していただき感謝です。楽しい休日を過ごせました。

参加者の割合(年代) AGE

木版画をまだ体験したことがないという方から、小学生ぶりに体験しますという方まで、10代~60代の幅広い年齢の方に参加していただきました。参加者の半数は10代でした。

講師プロフィール ARTIST'S PROFILE



宇田川新聞

1971年 東京生まれ。
東京造形大学 造形学部美術学科 版画コース卒業、東京芸術大学 大学院美術研究科版画専攻修了。
レトロなものをモチーフに、ばれんによる手摺りの水性木版画作品を制作している。現在は、木版画家、イラストレーターとして、書籍や雑誌、テレビ、広告などの幅広い分野で活動中。著書に『木版画手習帖』(池田書店)。

講師コメント ARTIST'S COMMENT

参加者の皆さんとともに、楽しく集中した2時間でした。和紙をめくるときの緊張の一瞬のあと、思いもよらぬ風合いや、うれしい効果と一緒に見つけることができ、あらためて木版画づくりの楽しさを感じました。
自由制作のポチ袋は「空気」や「水」を摺りつつようなみずみずしさにあふれていたのが印象的でした。